



ボーイスカウト東京連盟  
あすなろ地区広報誌  
第2号  
2015年4月2日  
組織拡充委員会

## 23WSJ世田谷・あすなろ「結隊式」

第23回世界スカウトジャンボリーに参加する世田谷地区とあすなろ地区合同派遣隊の結隊式が、3月29日（日）、世田谷区の代沢小学校体育館で開催されました。

世田谷地区の荻原地区委員長、あすなろ地区の村山地区コミッショナーの挨拶、派遣隊指導者の委嘱、派遣隊の編成、大会本部員の紹介、記念撮影のあと、父兄とスカウトは会場を分け、父兄会と2つの隊に分かれた隊集会を開き、隊集会では班員の自己紹介、役割分担、班名の決定などが行われました。

派遣隊では毎月の隊集会のほか、6月には訓練キャンプも予定しており、7月12日（日）の壮行会を行い、7月27日（月）23WSJに出発する予定です。



受付



結隊式風景



村山地区コミッショナーの挨拶



各隊派遣指導者の委嘱状伝達



各派遣隊記念撮影



各隊第1回集会で自己紹介

## 23WSJ練馬・あすなろ「結隊式」

第23回世界スカウトジャンボリーに参加する練馬地区へ、あすなろ地区の9名が配属され、3月1日（日）、派遣隊の結隊式が練馬区の平和台体育館で開催されました。各地区委員長の挨拶、派遣隊引率指導者、大会本部員の紹介などのあと、参加者の自己紹介、派遣隊隊長からの伝達、保護者会、過去のWSJの参加者からの経験談やアドバイスが行われました。

午後からは班集会を行い、班長の選出、班名、班員の役割を決め、今後の予定を打合せるなど、班作業を行う中でコミュニケーションを図りました。

派遣隊では毎月の集会で、英語で外国スカウトへ日本文化の紹介や自己紹介ができるよう準備したり、同じサブキャンプに入る外国スカウトのそれぞれの国に関する調査などを予定しています。

また5月には一泊キャンプを開催し、キャンプ技能のレベルアップ、調理実習などを予定しており、ソングやよさこいソーランの練習もする予定です。



鈴木地区委員長の挨拶



全員で記念撮影



派遣隊嶋田隊長の挨拶



保護者会



自己紹介



第21回・第22回WSJ参加者体験のアドバイス

## 23WSJ 派遣隊長からのメッセージ

23WSJ 世田谷地区・あすなる地区合同派遣隊第2隊  
第0307隊隊長 飯沼利雄



第16回日本ジャンボリー（16NJ）から2年が経ち、本年7月に待望の第23回世界ジャンボリー（23WSJ）が16NJと同じ会場の山口県・きらら浜で開催されます。

世界スカウトジャンボリーは、4年に1度開かれる世界スカウト機構主催のスカウトの大会です。日本で開催されるのは何と44年ぶりで、ホスト国として外国隊へのおもてなしの出来る体制が必修となります。

世界161の国と地域から約3万人の青少年が集まり、2週間にわたって、文化、言葉、習慣の異なる外国の仲間たちと「環境や開発、平和や人権」について体験を通じ、考えて行動し、互いに助け合い、認め合い、そして世界と向き合い、キャンプをしながら「世界の仲間」と体験を共有します。

世田谷地区・あすなる地区合同派遣隊では、大会を有意義なものとするため、事前の準備として、以下の5つの事について実施していきます。

### ①「英語会話の向上に努める」

大会中、きらら浜の会場は参加者の80%がパスポートを持って参加している外国隊の仲間たちで一杯になります。そのため公用語は英語となり、世界の仲間たちとコミュニケーションを図るためのツールとして、スカウトも指導者も共に、特に英語会話能力（他の言葉も可）の向上に努めて参加したいと思っています。大会までの隊集会では「外国語バッジ」の取得に向けた活動を行っていきます。

### ②「日本の文化を伝える」

外国隊の仲間たちへ日本の文化を伝えるために、各班では何を、どの様にして伝えるかを話し合い、実演することも行っていきます。

### ③「サブキャンプ内の外国隊について知識を持って接する」

外国隊の国々について調べ、予備知識を持ってコミュニケーションし、交流する。

### ④「派遣隊内のコミュニケーションを常に心がける」

準備段階から大会の期間中、そして一生の仲間だからこそ、特にコミュニケーションを常に心がけ、訓練キャンプも実施します。

### ⑤「健康管理は自己管理」

大会会場は猛暑が予想されることから、期間中だけでなく、今から規則正しい生活の中で日々体を鍛え、健康管理に心掛ける。

12泊13日の有意義な活動を行うために、テーマにもある～「和」WA: a Spirit of Unity～調和、協調、団結心を意識し、「世界スカウトジャンボリーの行動規範」について各自が十分理解し、行動出来るよう、そしてスカウトのモットーである「そなえよつねに」で万全な準備をしていきたいと思っています。

一人ひとりが掲げた課題、思いを実現できるように、派遣隊指導者全員で活動を進めていきます。

本大会のためにご協力頂いている、すべての皆様に感謝を申し上げます。

そしてこの世界スカウトジャンボリーをみんなで成功させましょう。



## 東京マラソンに奉仕

2月22日（日）、東京マラソンが開催され、時々曇り空の肌寒い天気の中、約36,000人のランナーが東京都庁をスタートして、銀座や浅草などの都心を走りました。

あすなろ地区のベンチャー、ローバースカウトやリーダーは、新宿西口の新宿中央公園周辺や都庁の北側の通りで、ランナーの集合場所を示す看板を持つなど、案内や誘導の奉仕をしました。



## 研修所・実修所参加者向け 事前課題研修会を開催

2月15日（日）、阿佐谷地域区民センターで研修所・実修所参加者向けの事前課題研修会が地区トレーニング委員会主催で開催されました。

開会式後、ウッドバッジ研修所・実修所に参加希望の各団のリーダーは、各部門に分かれて、コミッショナー、トレーナーから、参加までの流れや、課題研修の取り組み方法等についての説明を受けました。

研修所、実修所の参加によって、隊運営の基本的な方法やスカウト活動の理解を一層深め、各隊の隊長、リーダーとしてのますますの活躍と活動の充実が期待されます。



開会式

各部門に分かれての説明

## ウッドバッジトレーニングとは

ウッドバッジトレーニングとは、隊指導者のための訓練で、ボーイスカウト指導者講習会（隊指導者導入訓練）、ウッドバッジ研修所（隊指導者基本訓練）、ウッドバッジ実修所（隊指導者上級訓練）の3段階になっています。

ウッドバッジとは、ウッドバッジ実修所修了者に与えられる皮ヒモについた2個のビーズのことをいい、創始者ベーデン・パウエル卿が1919年にボーイスカウト活動の指導者訓練をイギリスのギルウェルパークで開始したとき、訓練修了者にアフリカの部族から贈られた木製の数珠の首飾りを革紐で通して贈ったことから、以後、この指導者訓練はウッドバッジ訓練という名称で世界に広まり、今日に至っています。



## 杉並第13団 「親子で野外活動体験会」を開催

3月15日（日）、杉並第13団では大宮八幡宮のスカウトの森で「親子で野外活動体験会」を開催しました。杉並区報にも開催のお知らせを掲載したため、広い地域から多くの親子が参加されました。

フライテントの中でボーイスカウト活動について父兄向けの説明が行われている間に、子供たちは牛乳パックの紙とストローで作った竹とんぼや、紙皿を色づけした円盤の工作をしたり、ゴム鉄砲での紙コップ倒しのゲームなどを楽しみました。

また立木を利用したブランコ、ハンモックも作られ、参加した子供が心地よさそうに揺れて、歓声があがっていました。

リーダーや団のご父兄はフライパンでホットケーキやポップコーンの心づくしの野外料理を作り、参加者された皆さんにも食べていただき、好評でした。

「野外活動体験」に参加された方々から、多くのスカウトの入隊が期待できそうです。



## 23WSJ 参加の外国スカウト・指導者 ホームステイ受入家庭を募集中！

世界スカウトジャンボリーの開催国は、自国をより深く理解してもらうため、ホームステイを希望する外国のスカウト・指導者に対して、受入家庭（ホストファミリー）の紹介を行うことになっています。

外国スカウト・指導者にとって、日本の家庭での生活体験は深い思い出となり、また受入家庭側でも、参加者との交流で異文化を体験し、友情交歓を経験する機会を得ることになります。

ホームステイの受入期間は、ジャンボリーの開催前または開催後の2泊3日～3泊4日で、東京連盟は日本連盟から860名の受入れを割り当てられており、さらに1地区当たりでは70名～80名（35家庭～40家庭）が割り当てられる予定です。

ホームステイの受入内容は、同性の2名1組で、スカウト同士が指導者同士を受入れることとなります。日本の受入家庭での日常体験が目的のため、受入家庭が提供する食事は日常のもので、また居間のソファでの就寝など、個室がなくても大丈夫とのこと。

費用負担については、派遣団の集散地点から各家庭への交通費や食費は、ホスト側が負担します。施設見学などの入場料等は、ゲスト側の負担が原則となっていますが、東京連盟では、費用の一部負担を検討中です。

あすなる地区ではホームステイを受入れていただける家庭がまだ不足しており、現在募集中ですので、受入を希望されるご家庭は、各団の団委員長を通じて、担当の佐藤（takenobu@y7.dion.ne.jp）までご連絡ください。



\*\*\*\*\*

### 編集後記

今夏の世界ジャンボリーに、あすなる地区では世田谷地区および練馬地区との合同派遣隊を結成することになり、結隊式も行われたことから、両地区の派遣隊で開催された結隊式の様子をトップニュースとし、飯沼派遣隊隊長にも寄稿いただきました。

両地区の合同派遣隊とも、ジャンボリー参加の準備のため、隊集会・班集会や訓練キャンプの開催が予定されているため、次号では合同派遣隊のこうした活動の様子もお伝えする予定です。

また、「地区報あすなる」はあすなる地区の活動の充実、連携の強化に役立てるための媒体ですので、あすなる地区の各団や隊の活動の様子など、記事の寄稿をいただけるようお願いいたします。